



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

クールリブラ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

ご意見ご感想メールそれなりに募集！

かれこれ3年ほど連載してきたクールリブラ。ここらでひとつ意見とか感想を地味に募集してみようかと思えます☆「このネタ面白かったです」とか「このネタ最高でした」とか「このネタが未だに夢にでてきます」とか、カジ擁護的な感想をメインにお願いします。「今学校でこんなものが流行っています」「こんなネタ書いてほしい」みたいなのももちろんOKです。メールはこちらまで → coollibrar@hotmail.co.jp

「痛かった？ 痛かった？」

体育館で行われる集団予防接種。不安顔で注射を待つ皆の横を、腕を押さえながら帰っていく既にやりおえた者に向けられる定番の言葉だ。「大丈夫だよ」と余裕で答えるその風情は、負傷しながらもミッシヨンコンプリートし母国へ帰還した兵士そのものである。

我々は皆、注射が嫌いだ。中でもカジは真の注射嫌いであり、キングオブ注射嫌いなポジションにかれこれ20年以上君臨している。尖った針が自分に刺さる瞬間の恐怖、痛かったり痛くなかったりが五分五分ぐらいの絶妙な割合で発生する恐怖、注射には我々を恐怖に陥れる仕掛けがいっぱいなのだ。小学3年のあの日、カジが真の注射嫌いになったきっかけはそこにある。

「身も心もエビになるんだよ☆」

【前回のあらすじ】
『ボンキッキが観たい』そんな安易な気持ちで学校を休んだカジだったが、病院で盲腸と診断され、翌日の手術が決定。まさかの展開に恐怖のどん底に：（4行であらすじが書けるという内容の薄さに驚愕だ）
手術が決定し、おかんは入院準備のため自宅へ。その間、翌日の手術に向けてのレクチャーがカジ少年に対し行われ、最後に『麻酔注射の時の姿勢』の説明があった。右下腹部の手術を行うために下半身麻酔を施すのだが、腰のあたりに麻酔注射を打つというのだ。そしてその時の姿勢は『エビ』のよう（ちよつどひらがなの『つ』のように体を前屈させる）にしなければならぬらしい。当時の看護師さんは、

などと冗談っぽく説明してくれたが、恐怖でテンパり気味のカジは「心もですか」とマジ返していた。

明けて翌日、いよいよ手術の時間がやってきた。手術の初っ端に麻酔注射を打つのだが、前日の説明時に看護師さんから「麻酔は結構痛いけど、男の子はがんばって我慢するんだよ☆」というテンション下がりがまくりの事前情報を得ていたため、恐怖と緊張で体が強張っていた。助手の看護師さんから「はい、エビみたいに体を丸くしてね」と指示され、手術台の上で前屈姿勢をとるカジ。しかし、体が強張っていたためか前屈具合が足らなかつたらしく、見かねた執刀医から怒号が：

「もっつエビー」

えええ…「もっつエビ」って言われても。チャーハンの具材じゃないんだから。あ、行数足らない。次回へつづくよ。

